

九州看護福祉大学

2019 年度母性看護学実習要項

**実習目的**

母性看護学で学んだ知識、技術を統合し、周産期における母子とその家族に対し、身体的・心理的・社会的特性を理解し、個別的な看護を実践するための基礎的能力を養う。また、リプロダクティブヘルス/ライツの観点から、周産期における女性および子ども・パートナーの健康課題と、生涯を通じた健康支援の必要性および看護について考察する。

**実習目標**

1. 周産期の母子と家族の身体的・心理的・社会的特性を理解し、各期の適応の過程を明らかにすることができる。
  - 1) 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の生理を述べることができる。
  - 2) 対象者の身体的・心理的・社会的特性を記述できる。
2. 周産期の母子とその家族に対し看護過程を展開できる。
  - 1) 系統的に情報収集し、情報を総合的に関連づけてアセスメントすることができる。
  - 2) アセスメントに基づき、対象者のケアニーズを明らかにし、看護上の診断を抽出できる。
  - 3) 母子とその家族に対して、根拠に基づいた看護が計画できる。
  - 4) 看護計画に基づき安全・安楽を考慮した個別的なケアを実践し、評価できる。
3. リプロダクティブヘルス/ライツの観点から、周産期における女性および子ども・パートナーの健康課題を踏まえ、対象者の生涯を通じた健康教育・ケアのあり方を考察できる。
  - 1) 周産期における女性および子ども・パートナーの健康課題について考えることができる。
  - 2) 対象者の健康課題を踏まえた健康教育の意義、方法について考えることができる。
4. 母子と家族の健康に関わる看護者の役割と責任を自覚した行動をとり、母子保健医療チームメンバーとして連携・協力する方法を考察できる。
  - 1) 生命の尊厳や対象者の尊重について認識を深め、倫理的配慮を持った態度と行動がとれる。
  - 2) 周産期の母子とその家族を取り巻く社会システムおよび地域社会におけるサポート資源について学び、妊娠期からの包括的な継続看護の必要性について考察できる。
  - 3) 母子保健医療チームメンバーとして適切な人間関係を作り、報告・連絡・相談ができる。
  - 4) グループの中でリーダーシップ、メンバーシップを発揮し、協力することができる。
  - 5) 看護学生として基本的な行動がとれる（挨拶、言葉遣い、身だしなみ、時間を守ることなど）。
5. 自己の学習過程を振り返り、今後の学習課題を明らかにすることができる。
  - 1) 自己の行動や気持ちを振り返り、記録やカンファレンスなどで表現できる。
  - 2) 今後の学習課題について述べることができる。

**実習期間および実習時間**

期間：2019年7月初旬～2020年2月下旬

時間：8：30～16：00（実習施設により異なる）

## 実習施設

別紙参照

## 実習方法

### 1. 事前学習

- 1) 事前学習課題：母性看護学実習ワークブック、看護過程事例（データベースアセスメント、関連図、母児の看護過程）に取り組み、母性看護に必要な知識を復習しておく。
- 2) 母性看護技術について自己練習しておく。

### 2. 実習内容

#### 1) 病棟実習

- (1) 1組の母子または入院している妊婦を受け持ち、看護過程を展開する。
- (2) 分娩があれば産婦を受け持ち、産婦のケア（産痛緩和、分娩経過観察、CTG など）および出生直後の新生児のケアを指導者とともに実施または見学する。
- (3) 褥婦および家族に実施される保健指導（退院指導、授乳指導、育児指導、沐浴指導など）を見学する。実施可能な項目があれば指導者と相談の上、指導案を作成し実施する。
- (4) 褥婦および新生児に必要な技術（退行性変化・進行性変化の観察、新生児の全身観察、沐浴など）を実施または見学する。

#### 2) 外来実習

- (1) 妊婦健康診査を受ける妊婦に同行し、妊婦健康診査の内容と保健指導を見学する。
- (2) 同行した妊婦の健診結果をアセスメントし、必要な保健指導について考える。
- (3) 可能であれば、尿検査、視診、触診（レオポルド触診法）、聴診（胎児心音聴取）、計測診（子宮底長・腹囲・血圧）、NST装着脱を行う。
- (4) 機会があれば産後健診（1週間健診、1か月健診）を見学する。
- (5) 機会があれば集団指導（母親学級、両親学級等）を見学する。

#### 3) カンファレンス

- (1) テーマカンファレンスを毎日実施し、1日の実習の振り返りと経験共有を行う。
- (2) 臨地実習最終日に最終カンファレンスを行い、2週間の学びを発表し、自己の課題を明確にする。
- (3) 学内実習日に事例発表および教員とのカンファレンスの機会を持ち、学習を統合する。

### 3. 実習概要と進め方

#### 1) 2週間の実習概要

- ・ 1週目：病棟の特性や対象者の特性を理解し、同意の得られた対象者に看護過程の展開を行う。受持ちや病棟の状況により外来実習を実施する。
- ・ 2週目：残された各自の学習課題・目標を明確にし、それらが達成できるように実習計画を立案し展開する。最終日学内カンファレンスで実習のまとめを行い、自己の学習課題を明確にする。

#### 2) 学内実習オリエンテーション

- ・ 実習初日の月曜日（祝日の場合は火曜日）に実習全般、実習施設の概要、実習スケジュール等について、直前オリエンテーションを受ける。
- ・ 自己の実習課題・目標を明確にし、明文化する。

- ・母性看護技術について練習する。
- 3) 病棟・外来オリエンテーション：実習初日に実習指導者のオリエンテーションを受ける。
  - 4) 母性看護学実習における実習の目的・目標、さらに各自のテーマに沿って実習計画を作成・提出し、それに基づき実習する。
  - 5) 出産前後の母子または妊婦を受け持ち、日々の計画を立案した上で、計画に基づいて受持ちへのケアを看護師/助産師とともに実施または見学する。受持ちがない場合は、外来実習やシャドーイング、自己学習を行う。
  - 6) カンファレンス
    - ・午後実習開始前までにテーマ選択をし、指導者・教員に伝えるとともに、時間・場所調整を行う。
    - ・学生間でカンファレンスの司会・書記を決め、学生主体で実施する。
  - 7) 学内実習日
    - ・9:10 に指定された教室に集合する。
    - ・実習初日：実習オリエンテーション、母性看護技術練習を行う。
    - ・2週目月曜日：事例発表、分娩見学レポート発表を行い、学習内容を共有する。  
\*発表資料は12:00までに指導教員に提出する。
    - ・2週目金曜日：実習の振り返り、評価面接、記録の整理

## 実習記録

1. 実習記録は所定の用紙を用いて記載する。
2. 毎日の実習記録は手書きとし、それ以外はパソコン使用可とする。
3. 毎日の実習記録(母性 様式 1)
  - ・日々の実習目標及び行動計画を記載し、事前に教員の指導を受ける。
  - ・実施結果・考察を記載し、実習翌日に毎回教員に提出する。
4. 看護過程記録：データベースアセスメント(母性 様式 2)、関連図(母性 様式 3)、看護過程(母性 様式 4)、受持ち事例の要約(母性 様式 5)
  - ・実習期間中受け持った対象事例から、1事例について情報収集・関連図作成・分析・看護計画の立案・実施・評価・要約を記録する。
  - ・事例発表資料：受持ち事例紹介、看護診断とその根拠、看護目標、看護計画、実施結果、評価を受持ち事例の要約(母性 様式 5)2枚以内にまとめる。
5. 母性看護学実習評価表(母性 様式 6)
6. カンファレンス記録(母性 様式 7)：カンファレンスに使用し、カンファレンス記録ファイルに綴じる。
7. その他
  - ・分娩 Report(様式自由)：分娩に立ち会った時には、産婦のプロフィール、分娩経過および結果、考察、感想をA4用紙2枚以内にまとめ、見学終了後翌日に提出する。
  - ・自己学習記録
  - ・作成したパンフレット、指導案など

## 8. 記録物の提出

- すべての記録をまとめ、とじ具で綴じて茶封筒に入れて2週目の金曜日 14:30 までに指導教員に提出する。
- 綴じる順番：表紙→評価表→日々録（日付順）→受持ち記録（データベースアセスメント、関連図、看護過程、看護の要約、作成したパンフレット、指導案、事例発表資料など）→その他（分娩レポート、自己学習記録など）
- 茶封筒の表書き

母性看護学実習
母性看護学実習記録
学籍番号 氏名
提出日
実習施設番号
実習期間

- カンファレンス記録と申し送りノートは記入・整理した後、リーダーが担当教員へ提出する。
9. 実習中に使用したメモ、事例のまとめ等カンファレンスに使用した資料、電子データについては実習終了時に各自細断処理・削除する。

## 実習評価

母性看護学実習評価表にもとづき、実習目標の到達度、実習やカンファレンスへの取り組み姿勢・態度、実習記録の内容・提出状況、事前学習の内容について教員が総合評価する。

なお、実習状況に応じて適宜面接を実施する。

# 母性看護学実習記録

実習場所			
実習期間	年 月 日	～	年 月 日
大学名	九州看護福祉大学 看護学科		
学籍番号		氏名	
担当教員名			

## 毎日の実習記録 (母性看護学)→手書き

実習施設 番号で書く 学籍番号 氏名

2019年 月 日 ( )

<p>本日の目標</p> <p>*学生を主語にして、本日の実習で達成したいことを具体的に書く。</p> <p>何のために何を行い、その結果何を学びたいのか</p>	<p>行動計画</p> <p>*本日の目標を達成するための計画を午前午後に分けて書く。</p> <p>*観察項目や手順、留意点なども入れる。</p>
<p>実施内容・得られた結果</p>	<p>考 察</p>
<p>*実施した内容・結果をまとめて詳細に記述する。</p> <p>*その日の受け持ちの状態をアセスメントするために必要な医師の診察結果や検査結果、看護記録も記述する。</p>	<p>*実施内容・結果から考えられること、アセスメントできることを根拠も入れて書く。</p> <p>*受持ちの状態を、根拠を入れてアセスメントし、看護診断や具体的な看護の方向性を書く。</p>
<p>指導者のコメント</p> <p>*実習中に指導者から指導・助言されたことを赤で記入する。</p>	

\*翌朝、実習指導者に提出する

九州看護福祉大学 看護学科

データベースアセスメント→ 手書きでもPCでも可  
れる)

受け持ち日： 年 月 日（産褥日数または妊娠週数を入

妊産褥婦（ ）氏  
(NO. )

学籍番号

氏名

立案日： 年 月 日

情報	アセスメント	まとめ
*ゴードンの分類に沿って受持ち情報を列挙する。	*列挙した情報のアセスメントを書く。→受持ちの情報（データ）を、根拠を入れてアセスメントする。	*最終判断を書く。

関連図→手書きでもPCでも可

学籍番号：

氏名：

妊産褥婦（ ）氏 作成日 年 月 日（\*産褥日数や妊娠週数を入れる）

診断リスト

\*母児に分けて優先順に列挙する。

関連図

看護過程→ 手書きでもPCでも可  
れる)

受け持ち日： 年 月 日 (産褥日数または妊娠週数を入

妊産褥婦( )氏 学籍番号

氏名

立案日： 年 月 日 (NO. )

看護診断とその根拠	目標と看護計画	実施結果	評価・考察
<p>*看護診断を書く。 *受持ちの情報をふまえ、その看護診断を抽出した理由(根拠)を書く。</p>	<p>*左記の看護診断に対する看護目標を長期、短期に分けて書く。 *看護計画を、OP、TP、EPに分けて書く。</p>	<p>*実施したケアの結果を具体的にわかりやすく書く。</p>	<p>*実施結果をふまえて受持ちの状態をアセスメントし、看護目標の達成状況を考察して書く。 計画内容の評価も書く。</p>

## 受持ち事例の要約 →手書きでもPCでも可

学籍番号：                      氏名：

受持ちイニシャル：

\* 受持ちの看護過程について、以下の内容をA4用紙2枚以内にまとめて書く。

- ・ 受持ちの基本情報
- ・ 妊娠期・分娩期・産褥期、新生児期の経過：看護診断の根拠に該当する情報
- ・ 抽出した看護診断
- ・ 看護診断の中から実際に看護を実施した診断に対する看護目標
- ・ 実施した看護計画の実施結果、評価・考察

## 母性看護学実習評価表

学籍番号:	氏名:	実習施設:	
実習期間:	年 月 日 ~ 月 日		
出席状況:	出席 日、 欠席 日、 遅刻 回、 早退 回		
評価項目		学生	指導者
<b>I 実習目的・目標達成度80点(5点×16)</b>			
<b>1. 周産期の母子とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解し、適応の過程を明らかにすることができる。</b>			
1) 妊娠・分娩・産褥、新生児の生理を述べることができる。	A B C D	A B C D	
2) 対象者の身体的・心理的・社会的特性を記述できる。	A B C D	A B C D	
<b>2. 周産期の母子とその家族のケアニーズを明らかにし、個別的な援助ができる。</b>			
1) 対象者の情報を系統的に収集し、総合的に関連づけてアセスメントすることができる。	A B C D	A B C D	
2) アセスメントに基づき、対象者のケアニーズを明らかにし、看護上の診断を抽出できる。	A B C D	A B C D	
3) 母子とその家族に対して、根拠に基づいた看護が計画できる。	A B C D	A B C D	
4) 個別性を踏まえた看護計画を立案できる。	A B C D	A B C D	
5) 看護計画に基づき安全・安楽を考慮した個別的なケアを実践し、評価できる。	A B C D	A B C D	
<b>3. リプロダクティブヘルス/ライツの観点から、周産期における女性・子ども・パートナーの健康課題を踏まえ、対象者の生涯を通じた健康教育・ケアのあり方を考察できる。</b>			
1) 周産期における女性・子ども・パートナーの健康課題について考えることができる。	A B C D	A B C D	
2) 対象者の健康課題を踏まえた健康教育の意義、方法について考えることができる。	A B C D	A B C D	
<b>4. 母子と家族の健康に関わる看護者の役割と責任を自覚した行動をとり、母子保健医療チームメンバーとして連携・協力する方法を考察できる。</b>			
1) 生命の尊厳や対象者の尊重について認識を深め、倫理的配慮を持った態度と行動がとれる。	A B C D	A B C D	
2) 周産期の母子とその家族を取り巻く社会システムおよび地域社会におけるサポート資源について学び、妊娠期からの包括的な継続看護の必要性について考察できる。	A B C D	A B C D	
3) チームメンバーとして適切な人間関係を作り、報告・連絡・相談ができる。	A B C D	A B C D	
4) グループの中でリーダーシップ、メンバーシップを発揮し、協力することができる。	A B C D	A B C D	
5) 看護学生として基本的な行動がとれる(挨拶、言葉遣い、身だしなみ、時間を守ることなど)。	A B C D	A B C D	
<b>5. 自己の学習過程を振り返り、今後の学習課題を明らかにすることができる。</b>			
1) 自己の行動や気持ちを振り返り、記録やカンファレンスなどで表現できる。	A B C D	A B C D	
2) 今後の学習課題について述べるができる。	A B C D	A B C D	
<b>II 実習への参加態度・記録の提出 20点(5点×4)</b>			
1) カンファレンスの運営・参画を積極的に行なうことができる。	A B C D	A B C D	
2) 実習目標の達成に必要な知識を予習・復習することができる。	A B C D	A B C D	
3) 積極的・自主的に実習に参加できる。	A B C D	A B C D	
4) 指定された記録物を期限内に提出できる。	A B C D	A B C D	
<b>評価点合計(I+II)</b>		<b>点</b>	<b>点</b>
<b>最終評価</b>		A B C D	
学生自己評価			
指導者評価			
サイン			
(評価基準) A5点 B4点 C3点 D2点 A:よくできた(わずかな指導・助言でほとんどできる) B:できた(少しの指導・助言でできる) C:普通(多くの助言・指導があればできる) D:できなかった(常に多くの指導・助言を必要とする)			

## グループカンファレンスの記録（第 回）

日時	年 月 日 曜 時 ~ 時	実習場所
出席者	(指導者)	
	(学生)	
カンファレンステーマ：		
テーマを選択した理由：		